



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/16 (月)	+ 600	+ 7,600	+ 8,200	個人発行・償還 国庫短期証券発行・償還 (3M)	国債補完供給オペ + 200		日: GDP (Q2) 日: 鉱工業生産 (前年比) (6月)
8/17 (火)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				1-Q: GDP (Q2)
8/18 (水)	トン	トン	トン		共通担保 (全) ▲ 4,000	CP等買入 + 5,000	日: 貿易収支 (7月) 米: FOMC議事要旨 (7月27-28日開催分) 1-Q: CPI (7月)
8/19 (木)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000				米: 景気先行指標総合指数
8/20 (金)	+ 1,000	▲ 23,000	▲ 22,000	国庫短期証券発行・償還 (1年)			日: 全国CPI (前年比) (7月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初528兆8,900億円から始まった。12日には国庫短期証券買入オペがスタートしたが、同日に国債発行も行われたため大きく増減することなく、ほぼ横ばいで推移した。一方で13日には年金定時払い及び国債買入オペのスタートにより、537兆4,800億円まで増加し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.028%から始まった。その後積み最終日にかけて地銀を中心に調達意欲が強まったことから、堅調な地合いが続き△0.026%~△0.02% (11日~12日) で推移した。三日積みである13日はさらに調達意欲が高まり、同金利は前日比+0.003%の△0.017%で越週した。ターム物は、新積み期スタートで1W~2W物中心に、主に△0.030%~△0.020%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内で16日にGDP (2Q)、20日にCPI (7月) の公表があり、海外では18日のFOMC議事要旨 (7/27-7/28開催分) の公表がある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.070 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

### <レポ>

足許GC取引は、週初から積み最終日となる12日約定の取引まで△0.080%~△0.07%での出合いが中心となった。積み期間が変わった13日約定の取引は、レートが低下し、おおむね△0.095%~△0.09%で取引された。SC取引は2年409~426回債、5年144~148回債、10年333~363回債、20年163~177回債、30年69~71回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

### <C/P>

今週の入札発行総額は約4,600億円で、週間償還額 (約4,700億円) を下回った。入札発行市場は、自動車や鉄鋼等の一部業態で大型の発行が見られたものの、夏季休暇の影響もあり案件数は少なく、落ち着いた相場展開であった。発行残高は先週末の25兆3,108億円から、12日時点で25兆2,938億円に減少した。発行レートは、発行頻度の低い銘柄等で深いマイナスレートでの約定が観測され、△0.07%台~0%近辺での出合いとなった。13日に、CP等買入オペが予定通り5,000億円でオファーされた。結果は、按分レート△0.013%・平均落札レート△0.011%と前回 (按分レート△0.013%・平均落札レート△0.009%) 比で概ね横ばいの結果であった。期日の短い玉の入れ替え需要等が一定量あったものと推定される。

来週の週間償還額は、約4,500億円程度となっている。発行市場は、週前半は夏季休暇中の企業も多く閑散が予想されるが、週後半は休暇明けの発行再開と20日発行が重なり相応の発行が行われるであろう。発行レートは、ワイドレンジでの出合いが想定される。一定の頻度で大型の発行を行う銘柄については0%近辺での出合いが予想される一方、希少銘柄や期末越の案件等に対しては引続き深いマイナス金利での出合いが予想される。

### <TDB>

8月13日の3M1015回債(2021年11月15日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1122% (前回債△0.1074%)、平均落札利回り△0.1122% (△0.1106%)。来週は19日に1Y、20日に3Mの入札がある。